

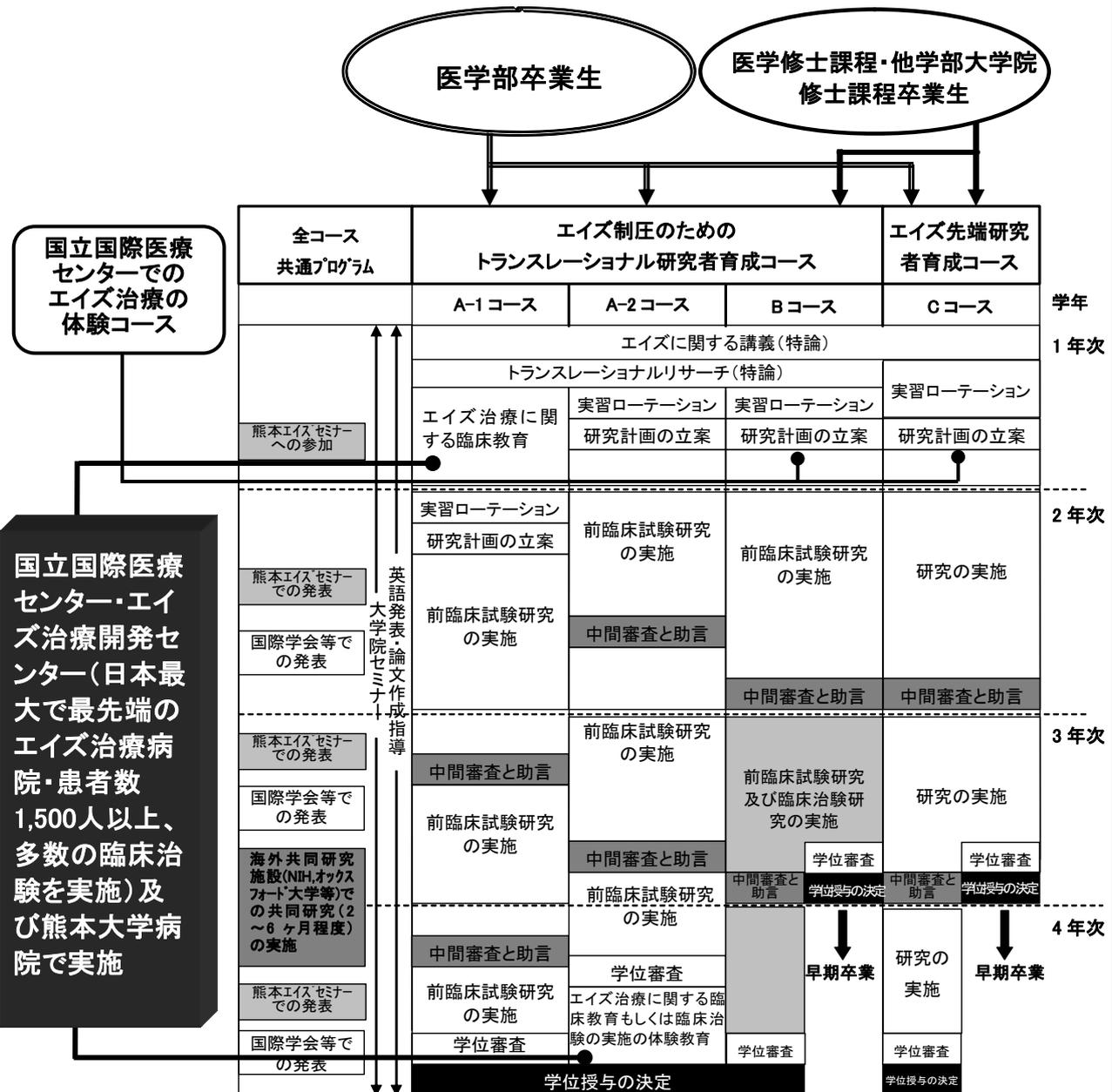
## 平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	熊本大学	整理番号	f006
1. 申請分野(系)	医療系		
2. 教育プログラムの名称	エイズ制圧をめざした研究者養成プログラム		
3. 関連研究分野(分科)  (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 基礎医学、内科系臨床医学、社会医学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (ウイルス学、感染症学、トランスレーショナルリサーチ、免疫学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ( [ ]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 医学教育部・病態制御学専攻 [博士課程(一貫制)]	研究科長(取組代表者)の氏名 山本 哲郎	
	(その他関連する研究科・専攻名) 医学教育部・臨床医科学専攻 [博士課程(一貫制)]		
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>熊本大学はエイズ学研究センターを平成9年に設立し、エイズ研究とエイズ研究者育成を目指す大学院教育を重点研究教育事項として掲げ、センター運営費や学長裁量経費の重点的配分などを行ってきた。また毎年9月には熊本エイズセミナー(国際シンポジウム)を主催し、国内外の著名なエイズ研究者を招聘し、全国の大学院学生や若手研究者の研究発表の場の提供を積極的に推し進めてきた。さらにエイズ研究を中心とした研究グループに研究拠点経費を配分し、さらに感染症に対する臨床医学疫学連携事業を開始し、エイズ研究拠点形成の支援を行ってきた。一方、昨年エイズ学研究センター流行阻止分野に新たに1名の客員教授のポストを増員し、研究・教育面の整備も図った。本プログラムは、これらのエイズの研究活動の実績を基盤にして、大学院学生教育を組織的・体系的に行い、国内外で活躍できるエイズ研究者育成の中核的役割を果たそうとするものである。</p>			

機 関 名	熊本大学	整理番号	f006
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)</p> <p>熊本大学医学教育部は、長い間感染症研究において国際的なレベルで活躍できる研究者の育成に力を注いできた。特にエイズの研究分野においては質の高い研究者を育成し、現在日本国内で最も活躍しているエイズ研究者(国立感染症研究所エイズセンター長、京都大学ウイルス研究所エイズ研究施設教授(2名)、熊本大学医学薬学研究部及びエイズ学研究センター教授(3名))を輩出し、日本のエイズ研究者育成の中心的役割を果たしてきた。これは、博士号取得条件としてピアレビューがある国際誌に論文が採択されていることを課し、公開による厳しい審査を行ってきた成果といえる。平成14年より医学修士課程を開設し、医学部以外の学部の卒業生を対象とした研究者育成教育を開始し、さらに平成15年度からは新たな大学院組織である医学教育部を設立、4専攻制による博士課程教育を開始し、大学院教育の改善に取り組んできた。このような教育研究活動の成果として、2名の大学院学生が開発に携わってきた2つのエイズ治療薬が、現在最終段階(Phase III)の臨床治験まで進んでいる。しかし、研究室間で大学院教育の質的格差が拡大してきており、より組織的・系統的な大学院教育制度の確立の必要がでてきた。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について)</p> <p>生存しているHIV-1(エイズウイルス)感染者が世界で4000万人以上になり、毎年300万人以上が死亡している。国内においても、既にHIV-1感染者は1万人以上に達しており、感染の急速な増大が危惧されている。このような状況下で、基礎研究成果を基にエイズの治療薬や治療法の開発まで行うトランスレーショナル研究の専門家の育成が、エイズを制圧するために急務とされる。そこで最もエイズの研究教育実績がある熊本大学医学教育部に、「エイズ制圧を目指した研究者養成コース」を新設し、国内外から大学院学生を受け入れて組織的な大学院教育を実施し、トランスレーショナル研究を推進する能力を有した研究者・エイズ専門医の育成、さらにHIV-1などの高病原性微生物の取り扱う能力を備えた研究者の育成を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「エイズ制圧のためのトランスレーショナル研究者育成コース」と「エイズ先端研究者育成コース」の2のサブコースを設置する。</li> <li>2. エイズに関する幅広い分野とトランスレーショナル研究に関する講義、日本最大のP3施設を使用した様々な研究方法に関する実習を行い、エイズ研究を行うための基礎的知識と技術の習得を初期に行う。さらに医師である大学院学生が進むコースでは、日本最大のエイズ治療病院である国立国際医療センターもしくは熊本大学病院で、エイズ治療に関する臨床教育と臨床治験を研修できるプログラムを、医師でない学生が進むコースでは、病棟などでのエイズの臨床を体験するプログラムも取り入れ、体系的な教育システムを構築する。また研究で優秀な成績をあげている学生が、指導教員の海外共同研究者の研究室で研究を行うことができるプログラムを作成し、国際的視野を持った研究者の養成をする。</li> <li>3. 指導教員と2名の研究アドバイザーによるアドバイザーユニットをつくり、学生の研究を定期的に審査し、研究が順調に進むようにアドバイスするシステムを作る。またプログラム運営委員会を設置し、プログラムの運営を行う。</li> </ol> <p>期待される改善点：組織的教育プログラムにより、幅広い知識と基礎・臨床研究の専門性を備えたエイズ研究者の育成が期待できる。また本プログラムが、トランスレーショナル研究が重要な他の分野(例えば癌などの分野)での研究者の育成の大学院教育の改善にも貢献できる。</p>			

6. 履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



国立国際医療センター・エイズ治療開発センター(日本最大で最先端のエイズ治療病院・患者数1,500人以上、多数の臨床治験を実施)及び熊本大学病院で実施

### 大学院教育の到達目標

Aコース: エイズのトランスレーショナル研究とエイズ患者の治療能力を備えた研究者及び研究志向を持った専門医の育成

Bコース: エイズのトランスレーショナル研究を進めることができる医師でない研究者の育成

Cコース: HIVなどの高病原性微生物を取扱う能力を有する研究者の育成

**<審査結果の概要及び採択理由>**

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。

本事業の趣旨に照らし、

①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか

②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか

の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に十分適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も十分期待できると判断され、採択となりました。

なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。

[特に優れた点、改善を要する点等]

- ・熊本大学の長年のエイズ研究の実績をベースとしており、特色ある取組となっている。研究と教育の関係についての課題の提示が明確であり、工夫をこらした教育プログラムとなっている。教育環境の条件も整っている。
- ・エイズ研究に関する海外の機関・施設との連携もよくとれており、教育環境の条件を整えている。すでに稼動している実効性のあるよいプログラムであるが、今後、現在の活動を超えるプログラムの構築と人材育成上の成果を期待したい。